



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ加盟各社

文部科学記者会

令和 2 年 9 月 23 日

科学記者会

御中

岡 山 大 学

報道解禁：令和2年9月23日（水）午後6時（新聞は24日朝刊より）

日本国内におけるクロイツフェルト・ヤコブ病の罹患率・死亡率動向を解明

◆発表のポイント

- ・過去 10 年間(2005-2014 年)の死亡統計データと厚生労働省の研究班データより、日本国内におけるクロイツフェルト・ヤコブ病の罹患率・死亡率動向を算出しました。
- ・クロイツフェルト・ヤコブ病の罹患率・死亡率が年々増加傾向であることを明らかにしました。
- ・特に 70 歳以上の高齢者における罹患率の増加傾向が明らかに高いことを解明し、社会の高齢化が進む中、国内のクロイツフェルト・ヤコブ病がさらに増加する可能性を明らかにしました。

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の萩谷英大准教授及び小山敏広助教らの研究グループは、これまで未解明であった日本国内におけるクロイツフェルト・ヤコブ病の罹患率・死亡率の動向を、厚生労働省の研究班データおよび死亡統計データに基づき明らかにしました。本研究は、同研究科総合内科学講座の大塚文男教授指導の下、同講座の西村義人非常勤講師、岡山市立市民病院の原田洸医師との共同研究で行われました。

クロイツフェルト・ヤコブ病は、脳に異常なタンパク質が沈着し神経細胞の機能が障害されるプリオン病の代表です。1990 年代後半にいわゆる狂牛病と呼ばれた牛海綿状脳症とクロイツフェルト・ヤコブ病の関連が示唆されたことで一躍世間の注目を集めました。ヤコブ病の中で最も多いのは原因不明の孤発型で、急速に進行する認知症としての側面を持ちます。現在の日本におけるヤコブ病の罹患率・死亡率がどの程度増加しているのかは分かっていませんでした。

本研究グループは、過去 10 年間(2005-2014 年)における日本国内のクロイツフェルト・ヤコブ病の罹患者数、死亡者数を調査し、統計学的に解析し、諸外国の動向と比較しました。その結果、罹患率および死亡率は 70 歳以上の高齢者で際立って増加傾向であることが分かりました。また、その増加傾向は諸外国を上回っていることが明らかとなり、今後の更なる高齢化の進行に伴い国内のクロイツフェルト・ヤコブ病がさらに増加する可能性が示唆されました。

本研究成果は、日本時間 9 月 23 日（水）18:00（英国時間 10:00）に英国の科学誌「*Scientific Reports*」に掲載されました。

◆研究者からのひとこと

クロイツフェルト・ヤコブ病は稀な疾患ですが、疫学や認知症対応といった公衆衛生の側面からの考察を行ったことで意義深い論文となったと思います。これからも重要な課題に関する研究を行っていきたいと考えています。



西村医師

現状の深い理解はよりよい医療への第一歩です。これからも、ヘルスケアデータを活用し、データサイエンスという新たな武器でよりよい医療のための科学的知見を世界に発信していきたいと思っています。



小山助教



PRESS RELEASE

高齢化に伴い、疾患の“Social Burden（社会的負担）”が変化しています。私たちは、今後もデータ解析を通して、日本や世界が直面していく疾病構造の変化を追いかけ、保健医療分野におけるSDGsに貢献していきたいと考えています。



萩谷准教授

■発表内容

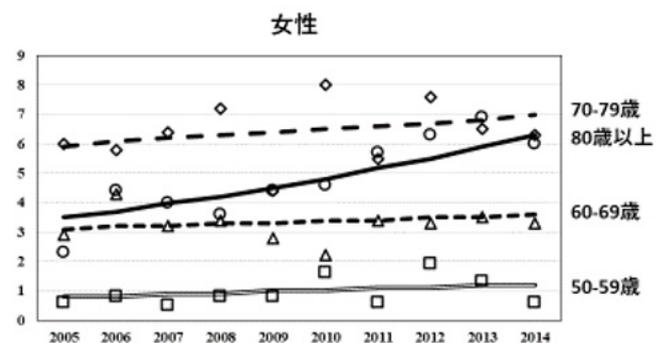
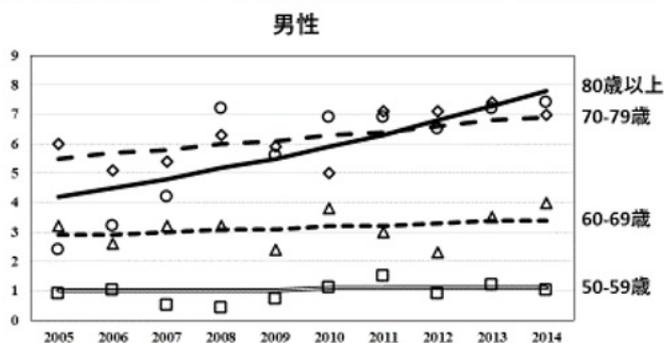
<現状>

クロイツフェルト・ヤコブ病はプリオンと呼ばれる異常な感染性を有するタンパク質が脳に沈着することを特徴としており、急速に進行する認知症を来し、発症後1～2年で死亡する神経難病です。急速に進行する認知症という側面から、クロイツフェルト・ヤコブ病は患者および介護者への負荷が高い疾患ですが、日本における罹患率・死亡率の動向は分かっていませんでした。

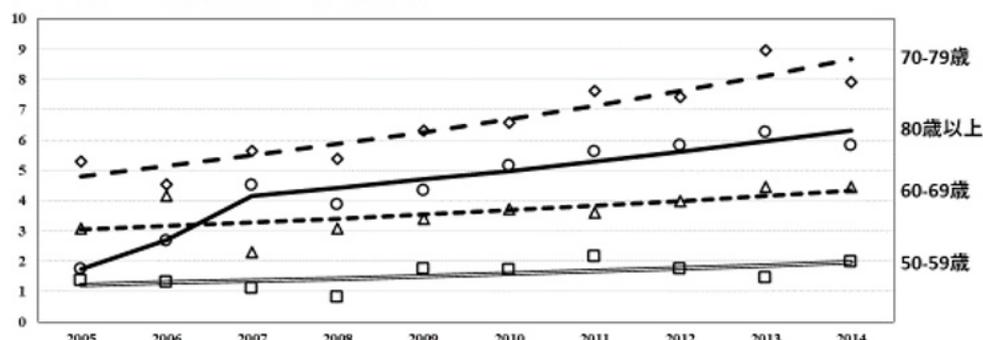
<研究成果の内容>

私たちは、過去10年間(2005-2014年)における日本国内のクロイツフェルト・ヤコブ病の罹患者数・死亡者数を調査しました。その結果、100万人当たりの年齢調整死亡率および罹患率が10年間で約1.5倍増加していることが分かりました。増加傾向は特に高齢者で大きく、死亡率の年間上昇率は80歳台男女で(下図上段)、罹患率の年間上昇率は60歳台、70歳台、80歳台で有意に増加傾向にありました(下図下段)。加えて、罹患率の年間上昇率は約6%と大きく、高齢化の進展に従って今後も直線的にクロイツフェルト・ヤコブ病の患者数が増加していく可能性が示唆されました。

クロイツフェルト・ヤコブ病による100万人あたりの年間死亡数



クロイツフェルト・ヤコブ病の100万人あたりの年間罹患数





PRESS RELEASE

<社会的な意義>

本研究によりクロイツフェルト・ヤコブ病の疾病負荷が日本人高齢者で増加傾向にあることが示されました。日本は高齢化の課題先進国であり、高齢化の進展に伴いクロイツフェルト・ヤコブ病が増加していることが示唆されます。また、本研究の結果は、今後国際的に高齢化がさらに進展する中でクロイツフェルト・ヤコブ病の疾病負荷が世界的に増加していく可能性を示しています。急速に進行する認知症は患者および介護者への負担が非常に大きく、本結果を踏まえてクロイツフェルト・ヤコブ病に伴う認知症患者・介護者を支援する施策の整備が先手を打って進んでいくことを期待しています。

■論文情報

論文名：A nationwide trend analysis in the incidence and mortality of Creutzfeldt–Jakob disease in Japan between 2005 and 2014

掲載紙：Scientific Reports

著者：Yoshito Nishimura, Ko Harada, Toshihiro Koyama, Hideharu Hagiya, Fumio Otsuka

DOI：10.1038/s41598-020-72519-0

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

総合内科学 准教授 萩谷 英大

(電話番号) 086-235-7342

(FAX) 086-235-7345



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。